

【上流】河川調査に関するアンケート〈集約〉

調査個所は、どこでしたか。 屋島(須坂)～大俣(中野市) 15人中14人回答

年齢は、いくつですか

20代	30代	40代	50代	60歳以上
3人	1人	5人	3人	2人

【利活用の可能性】

問1 千曲川の利活用により、地域の活性化を図ることが可能だと思いましたか。

可能	12人
不可能	0人
どちらとも言えない	2人

<千曲川の強み>

- 比較的川幅があり流れが非常に穏やかで、初心者でも安全に川下りを体験できるため、アクティビティのフィールドとして高い可能性を秘めていると感じた
- 下流はもう少し流れが急になるので、アクティブ層など区間によって様々なターゲットを想定できるのは千曲川の強み
- 川の中から見える風景は貴重な体験
- 令和元年の台風被害により、利活用とは違う意味で千曲川は注目されている。息抜きで利活用の話しをしてみるのも一考かと。何より身近な資源を活かさないともったいない。

<地域の活性化>

- 今はあまり活用されていない場所で、このあたりではあまり実施されていないアクティビティを実施することで、訪れる地域の人及び観光客が増え、地域の活性化につなげることができるのではないかと
- 川を楽しむ施設が無いので、カヌーポートを整備すればカヌーを趣味として楽しんでいる人達の利用は見込めると思う
- 千曲川流域に人、物の動きが生まれるから。

<非日常空間>

- カヌー、ラフティングで千曲川に出ると非日常空間になるのでストレス解消になる
- コロナの影響でアウトドアレクリエーションが見直されているので今がチャンス。特に都会の人にとって、普段経験できない貴重な体験ができ、密にならず休日を楽しめる場になると思う。
- 川を下ることは、日常の景色とちがうこともあり、心躍るような気持ちになる。この魅力を観光資源としてメニュー化が図れば良い。
- このような「ゆったり」した時間が過ごせる環境は、なかなか都会では確保できないと思う。

<子ども・初心者向け>

- 流れが穏やかで、初心者のカヌー体験や子供向けのイベントをするのに最適な場所。
- 活性化するには継続しないと行かない。継続して発信するには子ども達に体験させることが一番。例えば公民館活動の一環として小中学生と父兄の希望者にカヌー体験を年間行事に組み込んでもらうとか、それはサイクリングについても同じ。
- アウトドア好きの小学校位からのお子さんやいる家族などは楽しいのでは。

<課題点>

- 午後は海からの向かい風が吹き安全快適に川を下ることができないため、天候にも左右され午前中しかチャンスがないとなると、天候不良時の代替案検討などイベントの企画運営が難しいものになると懸念。
- まず地域住民が体験すれば千曲川の良さが再発見できると思う。
- ラフティングボートの醍醐味が無い。
- カヌーなら楽しめるかも知れないが、観光で来た人たちが利用するのか疑問。
- 流れが穏やかな区間が長かったため、川下りとしては少し退屈だったので、川下りだけなら次は乗らなくてもいいかなと感じた。

<その他>

- 河川環境が悪化していること、護岸ばかりの整備が進んでいること、温暖化など、今日注目されている環境問題を深く考える良い時間となった。

【利活用方法】

問2 あなたがイメージする千曲川の利活用方法について、何かアイデアがあればお書きください。

<かわまちならではの活用>

- 新幹線を活用し、上田駅で降りてカヌーやボートなどに乗り、河川を下って飯山駅で再度新幹線に乗って北陸へ向かうなど、JRと連携したプランをJRに提案する。
- 川下りと自転車と電車、バスを組み合わせ、それぞれの地域のおすすめポイントを紹介する観光コースを作る。例えばA駅に自転車で集合し自転車を置く。A駅付近のポートから川下りでC駅付近のポートへ。その間A駅からC駅に自転車を移動させる。自転車でC駅付近の観光スポット、美味しいお店をまわる。そのまま帰宅もしくは電車でC駅からA駅まで移動して帰宅。
- 千曲川の写真募集（少し高台からのキレイな川の写真ならそこまでサイクリングで繋げるかわまちルート開発）（写真でカレンダーを作る）（千曲川ビューポイント発掘）
- カヌーやボート、自転車のレンタル。川下り後サイクリングでスタートまで戻れるようになれば利用が増えるのでは。レンタルしたカヌー等も降りた場所に返却可能などの利用のしやすさの向上を図る。
- ただ川下りだけだと特に遠方からの利用者は腰が重いと思うので、グルメや温泉など複合させて楽しめる企画があれば良い。
- 流れ下るそれぞれの場所や地域の歴史などを、ガイドから話を聞きながら下ることで楽しみが増え、魅力的なメニュー化に繋がると感じた

<アクティビティー>

- 初心者向けのカヌー体験
- 食事をしながらの船下り
- 中州での魚釣り
- 中州を利用したキャンプ、水遊び
- 川辺に有料バーベキュー施設を整備。料金は少し高めに設定しても、家族連れが安心して利用できる施設管理を行えば、利用者は見込めると思う。
- かなりハードルが高いと思うが川下りしないと辿りつけない中州を活用したキャンプツアー
- カヌー大会（下りじゃなくて登りがいい）
- エンジン付ジェットスキーでラフティングボートを引っ張って短時間での体験コース作り
- 流れ込む支流の河口で魚釣り

- ・千曲川沿いのバードウォッチング
- ・バーベキュー広場、キャンプ場、オープンカフェ等の複合施設
- ・川を下りながらオリエンテーリングなどのように、チェックポイントを探しながらまわり、チェックポイントではその地域に関わるクイズを解きながらめぐる。複数のボートで競い合うのも良い。
- ・アウトドア関係でいうと、キャンパーはトイレと水場さえ近くにあれば、勝手に楽しむことができる。
- ・川の中州や高水敷が活用できれば強みになる

<魅力の活用>

- ・理屈ではなくどんな方でも一度川下りに乗ってみれば、必ず意識は変わると思います。まず体験。

<千曲川に親しむ機会の創出>

- ・飯山市内の小学5年生が必修科目としてラフティングを体験する教育は、他の5市町にも参考になる取組と感じた。日本一長い川としてのブランドがありながら地元の子どもがそのことを知らずに魅力に触れる機会がないのはもったいない。
- ・千曲川の郷土愛を醸成するコンテンツとしても活用できるのでは。
- ・千曲川の川下りが当たり前の文化になることで千曲川がより身近な存在になり、自ずと利活用が進む好循環が望ましいと感じる。
- ・ガイドによる千曲川の立ヶ花～大俣の区間など、流れが一定の理由（河川の付け替え、大俣の古川）の話などをしてもらえると、千曲川に対して興味をもってもらえると思う。

<事業者の育成>

教育としてのラフティングを通じて子どもたちにとってガイドが憧れの職業となれば、将来の担い手育成にも資するのでは。千曲川の魅力伝達に加えて、職業としてのガイドの魅力や仕事の内容を紹介することもよいのではないかな。

【自由意見】

今回の調査でどんな感想を持ったのか、良い所、悪い所、なんでも結構です。自由に感想を記入いただければ幸いです。

<良い点>

- ・ゆったりとした流れで景色を堪能でき、四方の山並みは都会にはない素晴らしい景色は宝物
- ・鳥の声を聴きながら川下りができ、ところどころ止まって、目をつぶって鳥のさえずり、風の音に耳を澄ますなどリラックスタイムをとるのもいい。
- ・お天気に恵まれてとても気持ちがよく、自然あふれる信州の心地よさ、楽しさを満喫した。
- ・地図ではわからないことがたくさんあり勉強になった。
- ・水鳥がたくさんいた
- ・のんびり景色を楽しめて自然に触れることでストレス解消にもなるので、都会の人にうけると思う。
- ・ガイドの方の話を聞きながら、川を下ることで、川への親しみや歴史を感じられ良かった。
- ・子どもの時から学校の授業で体験できることは、非常に貴重な体験であり、川への関心を高める良い経験と思う。
- ・正式化する前の事前調査という事ですので、まだ調整する項目や場所等あるかと思いますが、大枠としてはとても楽しむことができました。

- ・今回参加させて頂いたラフティングは、千曲川とそれをとりまく環境を活かすことができるスポーツだと思います。
- ・堤外地側の景色、村山橋を下からのぞくこともでき、市内の方も普段見ている景色を違うアングルから見れる面白さがありました。
- ・カヌーポート予定地の屋島は、須坂インター線からのアクセスが良く、既存のゲートボール場もあり、駐車場などの施設の確保も容易と考えられる。
- ・小布施エリアでは、船上からのため、アクセス状況など未確認だが、中州が浜辺状にもなっており、親水エリアとしてもよいのでは。
- ・小布施の桜堤や、中州に停泊しての休憩などの面白みがあった。
- ・アクセス道としては、大俣地区内の人家連単区間を抜けると、2車線改良済の市道へ接続するため、途中までは良。

<悪い点>

- ・初めてラフティングボートに乗ったが想定以上に暑い。
- ・自分が長野育ちのせいもあるかと思うが、思ったより川辺の景色に変化が無い。ただ川下りをするだけでは飽きてしまう。
- ・村山橋～小布施の間は、中州の間を抜けていくかたちになり、景色が余り変わらず、上流に比べると多少見劣りがある。

<課題点>

- ・日本一長い川であり、自然もたくさんある川なので、とても認知度はあると思うが、治水、防災の関係で「怖い川」という印象も多少ある。
- ・千曲川の利活用推進には、まず千曲川に興味を持ってもらい気軽に川に親しむ機会を創出することから始めることが重要と感じる。そのためのハード整備は河川事務所が計画的に進め、体験機会の創出や安全の担保、ガイド育成などソフト整備は市町が中心となり、県は市町の取組に横ぐしを刺し市町全体の取組の底上げといった、行政の役割分担を明確にして計画的に事業を進められたらよいのではないか。
- ・河川に出ると真夏だと日影がないので、ポートに影、飲料水（自動販売機）があると良い。
- ・どれだけ流行らせて興味を持ってもらうかになるので、宣伝も重要。
- ・流れの緩い区間については、屋形船のような食事をしながら下れば面白そう。
- ・何らかの予算を確保し、地域住民が格安で「好きなグループで」ラフティング体験ができると楽しいし、千曲川の魅力が再発見できると思う。
- ・自転車とも関連付けた観光を進めていくと思いますので、ボートの発着点に、駐輪施設に加え、更衣室、トイレの整備も検討されるといいと思います。
- ・区間によって流れが異なるので、その特徴にあったアクティビティを行うのが良いと思った。
- ・大俣：取水工付近であり、護岸、天端コンクリートが一定区間整備してあり、ガイドさん的には良いポートとなる感想を持っていたが、取水施設の管理者との調整も必要では？

<その他>

- ・中州でのおやつタイム（フルーツ、フルーツジュース、きのこ汁、おやきなど）
- ・大俣の手前辺りから山並が見えにくくなったので、そのあたりはみんなボートを漕ぐ体験。
- ・浅いところが思いのほか多かった
- ・増水で護岸の浸食が進んでいることに驚いた
- ・流れが緩やかすぎて退屈になるので、屋島～大俣区間はラフティングボートよりカヌーの方が楽しめると思う。
- ・屋島～大俣区間は子どもや年配はラフティングボート、若者はカヌーやSUPが楽しめると感じる。
- ・普段は堤防道路を自転車で行くスタイルな私は川は見下ろすもので、すぐ近くに手づかすの自然があることは、住民だからこその盲点だった。